

新型コロナウイルス感染症対策 市長に早急な対応を申し入れ



コロナの感染が広がる中、藤沢市議団と、かとうあやのさんと一緒に、市民の声をまとめ、市長に早急な対応を求める申し入れをおこないました (8月11日)

- 1、自主療養はやめ、県に臨時の医療施設などの大規模増設・確保を求めること。
市としても患者の受け入れ病床確保を医療機関に働きかけること。
- 2、発熱外来をおこなっている医療機関に対し、緊急の財政的、人的支援をおこない、個所数を増やすための財政的措置をもうけること。
- 3、県に対してPCR等検査無料化事業は、9月以降も継続することを求めること。抗原検査キットを事業所、学校、保育所などを通じて配布し、積極的な活用を呼びかけること。高齢者、障がい者施設での、定期検査を入所者、利用者におこなうこと。
- 4、効果的な換気方法を周知徹底すること。事業者に対して、換気施設・資材への財政的支援をおこなうこと。
- 5、ワクチンの安全性・有効性・副反応などのリスクについて情報公開すること。接種できない市民に対し、親身で丁寧な援助をおこなうこと。

遊行の盆

3年ぶりに開催された第15回遊行の盆。

土屋市議と参加しました。写真は保存会の皆さんによる「踊り念仏」です。この踊り念仏は盆踊りのルーツと言われています。夕方の涼風がこちよい中で、皆さんが楽しむ姿に和みました。通常3日間行なわれていましたが、コロナ禍で今年は1日だけの開催となりました。きやりや遊行ばやし、盆踊りが行なわれ、浴衣姿の方も含め多くの参加で賑わっていました。





加藤なを子活動レポート



県政へのかけ橋

発行：日本共産党・加藤なを子事務所

＜連絡先＞藤沢市藤沢2-3-2

Tel.0466-25-4776 fax 25-4761

平和への思いを1つにして



8月11日、江ノ電沿線9条の会「夏のつどい」に参加しました。漫画家の中沢啓治さんの人生を描いた映画上映と、被爆された方の体験談でした。

映画では中沢啓治さんの広島での被爆体験が語られました。原爆投下時は6歳。父、弟は炎に包まれ、亡くなりました。母を火葬したとき、「母の骨がない！」という事実直面し、「原爆は母の骨まで奪うのか。」と怒りがこみ上げてきたそうです。自分にできることは何なのかと考え、原爆をテーマにした「黒い雨にうたれて」

を最初に発表し、「子どもたちに戦争や原爆の恐ろしさを伝え、核兵器をなくし、戦争反対の気持ちをもってほしい。」と思ったそうです。私は、それが平和を守るメッセージになっていることに気づかされました。

中沢さんは2012年に亡くなりましたが、「はだしのゲン」は、命の大切さや世界中から核兵器をなくすために力をあわせよう、とずっと私たちに、伝え続けています（「はだしのゲン」は、藤沢市の図書館で借りることができます）。

被爆者の語りは「神奈川県原爆被災者の会・藤沢支部」の代表の神宮さんです。長崎での被爆体験を話され、「60年前、善行に来た時は100人の被爆者の方がいた。今は33人になっている」と言われました。被爆された時は、新型の爆弾としか知らされず、後から放射能を伴う原子爆弾だと知ったこと、原爆は一瞬で人間を炭にする恐ろしい爆弾で、「核兵器をなくす運動は死ぬまでやらなくてはならない。これからも続けていく。」と話されました。私も平和な世界をつくるため、せいっぱいがんばります。



ふじさわ不戦のちかい平和行動8月15日
畑野君枝・前衆議院議員（右端）と一緒に

なを子の花だより

カサブランカ

珍しい黄色のカサブランカです。花言葉は、「優しさ」「虚栄心」だそうです。強く甘い香りがします。白とは違う魅力があります。花が開くと花びらが反り返り、誇らしげに次々と咲きます。華やかで高貴な花の印象がありますね。

